Dr.米谷&真崎のリレー講座

患話休題

かんわきゅうだい

31

院長
真崎 雅和

飲み込みが悪い？

食べ物が口から喉を通って食道に運ばれるまでの一連の動作を嚥下（えんげ）といいます。呼吸するとき空気は鼻から喉を通って気管に運ばれるため、喉を通る呼吸と嚥下は同時に行うことができません。もし同時に行ったら食べ物が気管に入る危険性があるからです。そのため、嚥下するときは呼吸の通り道を塞いでおかなければなりません（余談ですが赤ちゃんだけはおっぱいを飲みながら同時に呼吸ができます。不思議）。

最初に飲み込むときは鼻に食べ物が入っていかないよう喉ちんこ（軟口蓋（なんこうがい））が上に上がり、鼻の出口が塞がれます。次に食べ物が舌より奥に送られると、舌の付け根が上がって逆流を防ぎます。喉を触ったときに一番上にある骨を舌骨（ぜっこつ）といいますが、舌骨はその下の2つの軟骨でできている喉頭（気管の入り口）をぶら下げるように釣り上げています。この挙上（きょじょう）（持ち上げること）により舌の奥にある蓋（ふた）と接触し気管の入り口である喉頭が塞がれます。その後、喉頭の軟骨から食道の周りを囲んでいる筋が緩んで食道の入り口が開き、そこから食道の筋の働きで胃まで送られることになります。

この一連の動作がうまくいかないことを飲み込みが悪い（嚥下障害）といいます。脳梗塞などで一連の動きをつかさどる神経が働かなくなると、食べたものが鼻から出てきたり、口から奥になかなか進まなかったりします。最も問題となるのは気管を塞ぐ働きがなくなって食べ物が気管に入ってしまうことです（誤嚥（ごえん））。健康な人はむせて反射的に咳をして吐き出せますが、神経が麻痺していると反射的に咳をするのが難しく、気管に入った食べ物が原因で肺炎を引き起こすことが多く、命に関わることも少なくありません。

高齢の場合は麻痺していなくとも働きが相当に落ちてくるのに加え、食道を取り囲む筋肉が固くなって食道が開きにくくなります。そのため、少しずつ誤嚥を繰り返すうちに肺炎を引き起こすことになります。他に原因のない高齢者の死亡原因の多くは誤嚥性肺炎です。

私たち耳鼻咽喉科は嚥下に深く関わっています。従来のバリウムを飲んでレントゲン撮影する嚥下機能の検査は、バリウムの誤嚥による障害がありましたが、私たちが外来で行うファイバースコープによる嚥下検査は、簡単で安全に行うことができます。また嚥下障害の対処法も進化しており、飲み込みのトレーニングやリハビリの他、手術して改善させる方法まで既に実用化が進んでいます。飲み込みが悪いときは耳鼻科で検査を！わかりましたか？はい、飲み込みがいいですね。

診察時間が近づいたことをお知らせする
メールサービスを
約30分前
ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!

急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30〜12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00〜6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00〜4:00	

真崎耳鼻咽喉科医院
TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3